

ダムにたよらない治水のあり方(骨子)

嶋津 暉之 (水源開発問題全国連絡会)

第1章 ダムにたよらない治水を求める理由

(1) ダム建設がもたらす問題

ダムの建設は様々な問題をもたらすものであるから、ダムの代替手段を徹底的に追求しなければならない

(2) 利水面での新規ダムの必要性の喪失

- ① 人口の減少と節水機器の普及によって、水道用水の需要は今後ますます減って、水余りの状況が顕著になっていくので、新たな水源開発は不要である。
- ② ダムを前提とした暫定水利権は長年の取水実績があり、実質的に安定水利権と変わらないので、ダム中止後も継続利用が可能である。

(3) ダムによる治水対策の問題点

- ① ダムの集水面積は小さく、もともと、あまり大きな効果を持ち得ない。
- ② 雨の降り方によって治水効果が大きく変動するギャンブル的治水対策である。
- ③ ダム地点から下流に行くほど、洪水ピークの削減効果が減衰する。
- ④ ダム地点の洪水が想定を超えると、ダムは治水機能が急減する

(4) ダムの治水効果についての誤解

ダムの治水効果は小さく、堤防決壊や堤防漏水を防止する対策にはならない。

第2章 新規ダムを治水計画から除くためのステップ

第1ステップ 治水計画の目標流量の再設定

治水計画は、机上の計算で求めた現実離れした過大な洪水流量ではなく、実際に観測された近年の最大洪水流量に近い数字を目標流量とする。

第2ステップ 新規ダムよりも河道整備優先の治水計画へ

河川整備基本方針で定められている河道整備を優先して進める。

第3ステップ 河道整備で対応可能な範囲と洪水受容の方策の徹底追求

- ① 現況河道で流下が可能な洪水流量および河床掘削や堤防の一部嵩上げで流下が可能となる洪水流量を追求する。
- ② 河道整備で対応できる範囲を超える洪水については豊川霞堤地区の事例および国交省による球磨川の川辺川ダムの代替治水策を参考にして、流域への受容の方策を追求する。

第4ステップ 想定規模を超える洪水への対応策

洪水が堤防を越流することがあっても、堤防が直ちに決壊しないように耐越水堤防に強化するとともに、流域への洪水の受容の方策を追求する。

第3章 ダムの費用便益比(B/C)の正しい再計算の実施

新規ダム事業の費用便益比 (B/C) を現実に即して正しく再計算し、ダム中止の理由を明確にする。